

公益財団法人空知しんきん産業文化振興基金「ふるさとづくり大賞」  
受賞御礼の言葉

令和7年3月6日  
一般社団法人清水沢プロジェクト  
代表理事 佐藤真奈美  
於 岩見沢平安閣

本日は栄えある令和6年度、公益財団法人空知しんきん産業文化振興基金「ふるさとづくり大賞」をいただき誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。南空知各地で様々な地域の課題に取り組み、奮闘しておられる、本日ふるさとづくり部門各賞を受賞された皆様を代表して、私がお話しするには少々荷が重いですが、地域で活動する者としての率直な思いを、皆様にお伝えできたらと思います。

「夕張は文化の街だ」。令和6年度の貴基金特別表彰・文化特別大賞を受賞された、夕張美術協会・小林和拓会長の言葉です。  
石炭とともに歩んだ100年、その誇りを輝かせようと奮闘したその後の35年。先輩方はあらゆる困難に直面しても、輝かしい歴史と文化を手放すまいと必死に努力して来られました。

その大きな背中を見つめながら、私どもは、平成20年から活動を始めました。地域をまるごと博物館「清水沢エコミュージアム」と考え、地域の象徴である有形無形の炭鉱遺産を保存・活用することを通じ、地域内外の人々が相互に尊敬しあう関係を構築し、両者が「ともに歩む地域」を築くことを目的としています。

例えば、「旧北炭清水沢火力発電所」「清水沢ズリ山」をはじめ、文化財指定を受けていない未利用の炭鉱遺産を掘り起こし、所有者の方々と関係性を築き、活用を行ってきました。  
また、昭和47年に北炭が建築した鉱員住宅の1棟を夕張市からお借りし、平成28年から交流拠点施設「清水沢コミュニティゲート」として運営しています。空知でもいち早く「アーティスト・イン・レジデンス」として芸術家の滞在制作の受け入れを行い、実は本日も、現在滞在中の秋田からきたアーティスト、山岸耕輔さんがこの場に同行いただいています。

ただ、皆様もお感じになっていることと思いますが、地域の状況は依然、非常に厳しくあります。私どもが、今現在抱える問題として、私どもの地域の中心にある、北炭が昭和46年に設置した地区共同浴場の「夕張市宮前町浴場」が今年8月末で閉鎖されるという問題に対し、現役最古の「生きている炭鉱遺産」として、将来にわたり引き継いでいけなしかと署名活動などを実施し、一昨日3月4日に夕張市長に提出してきたところです。  
地域にとって本当に大切なものであっても、もはや私たちのまちでは文化財を守る余力もない。条件不利地域に生きる私たちが、せめて心だけでも豊かに生きるために何が必要な

のかーその答えは、「文化」です。皆様方も、コロナ禍のときに経験されたと思います。文化は人の生き死には直結しないが、豊かに生きるためには必要不可欠なものである、と。

夕張の先輩方は、私たちにたくさんの言葉を教えてくれました。夕張市滝の上在住で、メロン農家を営む小林尚文さんは、滝ノ上地区のお祭りで「文化は地域から生まれるんだ」と胸を張っていました。

また、昨年ご逝去された、夕張市文化協会会長を長く務めた古城将昭先生は、夕張文化協会誌に寄せた詩の中で、夕張で生き続ける人々の誇りと決意を詠いました。

「暮らしと文化、自治のともしびを絶やしてはいけない」

これらの言葉を胸に、歴史と文化への誇りをまちづくりの糧とし、文化の街・夕張の担い手として、これからも活動を続けていきたいと思えます。

結びになりましたが、ご出席の皆様のご健勝、御多幸をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。